

平成28年6月24日

浜田市議会議長 西田清久様

議員名 芦谷英夫



## 調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究活動を行ったので、その結果を報告します。

### 記

- 1、期 間 平成28年6月12日(火)
- 2、調査内容 「幕長戦争石州口の戦い～150周年記念事業～」関係  
調査のため
- 3、調査先 益田市(県芸術文化センター・グラントワほか)
- 4、調査経費 浜田市⇒益田市⇒浜田市(自家用車使用)  
ガソリン代 1,260円
- 5、調査研究活動の概要  
別紙のとおり



「幕長戦争石州口の戦い～150周年記念事業～」調査のため

平成28年6月24日

- 1 日 時 平成28年6月12日（日）13時30分～15時30分  
2 場 所 県芸術文化センター・グラントワほか  
3 講 演 「石州口戦争に見る近代日本の夜明け」

広島大学名誉教授 三宅 紹宣 氏

4 概 容

- ① 1866年幕長戦争石州口の戦いが始まり、総大将大村益次郎率いる長州軍は、益田扇原関門で迎え討つ浜田藩を打ち破り、益田川を挟んでの攻防を経て浜田城自焼退城となり、1867年の大政奉還、68年の明治維新を迎えた。扇原関門では浜田藩士岸静江国治の壮絶な立ち往生で死を遂げ、有名な史実として残っている。
- ② 幕末日本は大きく揺れ動き、ペリーの黒船来航、外国との不平等条約など、そのしわ寄せが農民や町民に押しつけられ、民衆の不満はピークに達した幕末の時代背景がある。
- ③ そのような時代背景の下、長州軍は民衆を騎兵隊として組織し、進化した機動力や装備、新しい戦い方により、従来の武士の戦いの幕府軍を圧倒し進軍した。
- ④ 石州口の戦いは、長州軍の西洋的な新しいシステム、優秀な西洋式ミニエル銃、西洋式用兵術など、江戸時代とは異なる近代的西洋文化が、長州軍をして島根県西部を駆け抜け、島根県西部、益田（浜田もだが？）は近代日本の夜明けの舞台ともなった。
- ⑤ 講演に先立ち、扇原関門の近くの多田公民館では岸静江国治の150回忌法要が行われ、講演の前段では岸静江国治をしのぶ創作神楽「扇原」が演じられた。

5 所 見

- ① 浜田市では平成31年に浜田開府400年を迎え、1619年の浜田開府から1866年幕長戦争石州口の戦い、浜田城の自焼退城と浜田藩終焉まで、開府400年事業の一連として取り組む必要がある。
- ② 浜田に入った戦いでは、大麻山での攻防、周布と内村での周布川を挟んでの攻防、周布聖徳寺の長州軍の弾痕跡、幕府軍の布陣跡など三隅、折居、周布、内村、長浜など長州軍が進軍した戦いの史跡や伝承などがあり、これらを明らかにし整備することはふるさと歴史教育にとっても有用である。
- ③ 郷土の国学者藤井宗雄が自焼した浜田城から文書を取り出した、自焼退城のあと描かれた絵に浜田城天守が描かれていた、などとの証言もあり改めて自焼退城の時代を検証する必要がある。
- ④ 石州口の戦いや益田市の取組に学び、郷土の歴史についての関心を高め、市民運動として推進する必要があるが、団体や組織などの支援、在野の郷土史家との連携、公民館活動の充実などに取り組む必要がある。
- ⑤ 浜田市の場合、文化歴史行政の体制が十分ではなく、（仮称）浜田歴史文化研究センターの設置、歴史文化専門の顧問の委嘱、市誌編纂専門員の充足などを検討する必要がある。